

【第2期】苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略

(概要版)

令和2年3月

第2期苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略の策定について

1. 計画策定の背景

【国の動き】

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、次期総合戦略に向けて令和元年6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針」を閣議決定。その基本方針では、**第1期の枠組（4つの基本目標）を基本的に維持しつつ、必要な強化を行うことや、新たな視点に重点を置いて施策を推進すること**を示し、同年12月には第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。

【市の動き】

- ◆ これまでの取組（第1期総合戦略）を礎として長期的な視点に立ち、人口減少対策、地方創生の取組を切れ目なく、粘り強く進めるとともに、新たな視点を加え、近年の経済・社会情勢の変化に対応できる新たな戦略を策定。
- ◆ 最新の人口統計や市民アンケート（市民意識）の結果等も踏まえ、人口将来展望（ビジョン）、今後5か年の基本目標、施策等を第2期総合戦略に示す。

2. 第1期総合戦略の検証

- ◆ 総合戦略に掲げる9つの数値目標及び37のKPIについては、令和元年12月現在の進捗率が75%
- ◆ 平成30年（2018年）の国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計では、人口の減少幅が若干改善
- ◆ 道内の人口規模上位5市のうち、人口が増加している札幌市を除く4市を比較すると本市の人口の減少幅は小さい。
- ◆ 人口動態については、出生数の減少と死亡数の増加による、自然減の状態が加速。
- ◆ 社会動態は、周辺の自治体から転入が多い一方で、若年層の進学や就職による都市部への流出に歯止めが掛かっていない。
- ◆ 再転入者数も少ない状況。

- ◆ 将来的な人口減少は依然として深刻な状況。
- ◆ 第2期においても、長期的な視点にたって、粘り強く人口減少対策を進める。

加速する人口減少の現状

住民基本台帳人口・世帯数及び人口動態より

自然増加・出生数は年々減少。特に令和元年度、出生数が1年前と比較して、100人程減少している。
晩婚化も進む社会情勢の中、出生数がますます減っていくことが予想され、子どもを産みたい人が子育てしやすい環境の整備など、各種対策の重要性が高くなっている。

年次	世帯数	人口				自然増加			社会増加			その他	対前年増加数	
		増加数	総人口	老年人口 (65歳以上)	高齢化率	増加数	出生	死亡	増加数	転入	転出	増加数	世帯数	人口
平成27年	86 877	△ 270	173 794	44 462	25.58%	△ 299	1 447	1 746	25	6 317	6 292	4	511	△ 270
平成28年	87 334	△ 659	173 135	46 009	26.57%	△ 313	1 359	1 672	△ 322	5 806	6 128	△ 24	457	△ 659
平成29年	87 716	△ 762	172 373	47 410	27.50%	△ 561	1 255	1 816	△ 208	5 792	6 000	7	382	△ 762
平成30年	88 545	△ 562	171 811	48 603	28.29%	△ 616	1 243	1 859	52	6 122	6 070	2	829	△ 562
令和元年	89 460	△ 569	171 242	49 365	28.83%	△ 781	1 146	1 927	188	6 166	5 978	24	915	△ 569

※本表は外国人住民を含む。
※人口は各年12月末現在
※自然増加は各年の累積。

出生についての市民意識

市民アンケート結果より抜粋

第1期総合戦略策定時と同様に「子どもの数が理想に比べて、少ない理由」として、「お金がかかりすぎる」、「こどもの数が増えると思う施策・対策」として「経済的負担の軽減」との回答が多く寄せられた。

理想のこどもの数

2人

55.3%

3人

32.5%

子どもの数が理想に比べて、少ない理由

お金がかかりすぎる

62.8%

心理的・肉体的負担が大きい

20.4%

手助けする人がいない

17.7%

子どもの数が増えると思う施策・対策

経済的負担の軽減

56.8%

安定した雇用の確保

42.4%

職場環境の整備

37.0%

出産・子育て、雇用対策に結びつく施策の全庁的な展開が必須

人口ビジョンの概要

1. 苫小牧市の将来展望の考え

【①合計特殊出生率の目標】

平成28年（2016年）に閣議決定した「ニッポン一億総活躍プラン」において「希望出生率1.8」が掲げられた。

北海道人口ビジョンにおいても令和12年（2030年）又は令和22年（2040年）に合計特殊出生率が1.8になると仮定して人口を推計。このことを踏まえ、本市の合計特殊出生率の目標値を1.8とする。

合計特殊出生率（自然動態）

2040年までに段階的に引き上げ
(合計特殊出生率 1.51⇒1.80)

【②純移動の目標値】

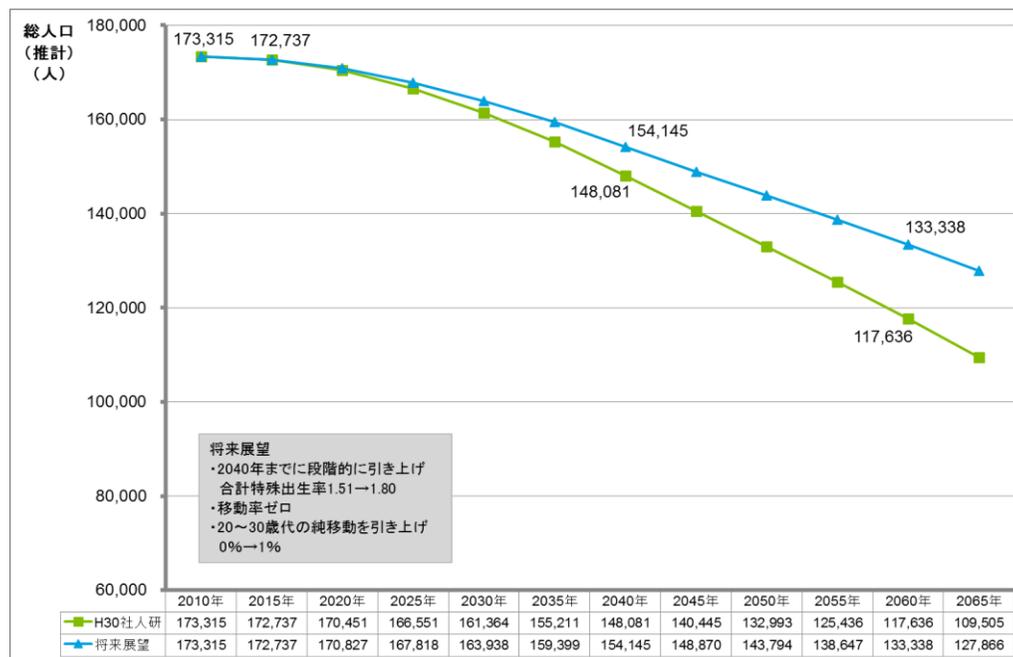
転出が多い20歳代と、今後の子育て世代となる可能性の高い30歳代において、平成22年（2010年）～平成27年（2015年）までの人口の純移動率が、-0.02%とほぼ均衡していることから、本市の純移動率の目標値を第1期と同様に20歳代～30歳代で1%とし、その他の年代でゼロとする。

純移動率（社会動態）

移動率ゼロ + 20～30歳代の純移動を引き上げ（0%⇒1%）



推計値（単位：人）	
2040年	2060年
154,145	133,338



現在の人口171,290人 ⇒ 令和22年（2040年）15万人を維持・令和42年（2060年）13万人を維持

「合計特殊出生率」

本市の合計特殊出生率は国や北海道と比較して、高い傾向（1.51：2015年国勢調査）・・・
しかし、仮に、1.51程度の水準でこのまま推移した場合、単純計算（転出・転入等の社会増減を加味しない）では、以下のように人口は減少する。

**合計特殊出生率
1.51**

第1世代（本人）	男性	5,000人	女性	5,000人	合計	10,000人
↓						
第2世代（子）	男性	3,775人	女性	3,775人	合計	7,550人
↓						
第3世代（孫）	男性	2,850人	女性	2,850人	合計	5,700

※参考

**合計特殊出生率
1.80**

第1世代（本人）	男性	5,000人	女性	5,000人	合計	10,000人
↓						
第2世代（子）	男性	4,500人	女性	4,500人	合計	9,000人
↓						
第3世代（孫）	男性	4,050人	女性	4,050人	合計	8,100人

第2期総合戦略の概要

1. 総合戦略の推進により目指す本市の姿

健康で安全な都市環境のもと、世代や性別に関わらず、豊かで明るく誰もが住みやすい「とまこまい」

2. 基本目標

1 地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現

2 子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備

3 地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

3. 施策の体系

4つの基本目標を実現するために
18の「施策」を展開

- ◆ 第1期総合戦略の事業で継続すべき事業
- ◆ 新たに取り組を検討している事業
- ◆ 中長期的な視点により検討していくべき事業

4. SDGsの視点による地方創生

各施策がSDGsのどの目標に結びついているのか、見える化を図り、行政の個々の取組が日本はもとより世界が進める持続可能なまちづくりにつながっているのかを共有。



5. 多様性に富んだ社会、安全・安心な地域づくりで地方創生を推進

活気あふれる地域をつくるためには、誰もが居場所と役割を持ち、個人として尊重され、その個性と能力を発揮し、活躍できる地域社会を実現することが地方創生を推進する重要なポイント。

北海道で初めて宣言した「苫小牧市男女平等参画都市宣言」に掲げた、理念を念頭に各種事業を推進。

基本目標と 施策の基本的方向

市内の高校・大学等に通う学生が地元企業を知り、興味を持つ機会を設け、企業の認知度を高めます。また、若者をはじめ、働きたい人が働くことができ、地元企業の雇用を確保・拡大できるよう支援するとともに、市内創業者（起業家）の創出・育成を図ります。さらには、Society5.0の実現に向けた未来技術の活用を促進します。

施策の基本的方向 1-1 若者の雇用機会の確保・拡大

施策① 若者の市内就職の促進

- UIJターン希望者等の市内就職に向け、都市部で合同就職説明会を開催し、市内企業の人材確保を支援。
- 企業で行う職場体験や実務研修などの実施により、若者の市内就職を促進。
- 地域の中小企業等の人材確保及び東京圏から本市へのUIJターンによる就業・起業の促進を図り、活気ある地域づくり・地域経済を維持。



展開する事業

- ・ 合同就職説明会事業
- ・ 若者人材育成事業
- ・ 若者地元定着促進事業
- ・ 苫小牧UIJターン新規就業支援事業
- ・ 介護人材確保支援事業
- ・ 介護職員育成支援事業

施策の基本的方向 1-2 学生と地元企業との“縁づくり”促進

施策② 学生と地元企業との交流・連携機会の創出

- 無料就職マッチングサイトにより、市内外の学生をはじめ、求職者に市内企業の魅力や求人情報を広く周知。
- 高校生等を対象とした職場見学とセミナーを組み合わせたバスツアーを開催。学生と地元企業が出会う機会を設け、企業活動や仕事に対する理解を深める。
- 地元企業と連携して小学生を対象とした疑似的な就労体験イベントを実施。



展開する事業

- ・ 就職マッチング支援事業
- ・ 就業チャレンジ支援事業
- ・ キッズタウン開催事業
- ・ 関係機関と連携した各種取組の展開

施策の基本的方向 1-3 創業支援

施策③ 苫小牧における創業支援

- 苫小牧市内での創業希望者に対して、創業前後に必要な支援を行うほか、本市からスタートアップ企業やベンチャー企業が新規創業するための土壌づくりを行う。
- 関係する機関（商工会議所、金融機関等）と連携し、創業希望者に対して支援を行う。
- 女性のエンパワーメントや潜在層の起業支援、起業後の交流の場を設けるなど、女性活躍に向けた取組を促進。



展開する事業

- ・ 創業サポート事業
- ・ 創業等相談窓口の機能強化
- ・ 女性活躍促進事業

施策の基本的方向 1-4 Society5.0実現の推進

施策④ Society5.0の実現に向けた技術活用の支援

- 労働人口の減少が進む中で、市内企業が抱える課題・ニーズへの解決や新規事業を創出するため、先進的な技術やサービスを導入する企業に対して支援。
- 市の取組として、定型業務へのRPA導入、問い合わせ業務のAI化などにより業務効率化を図り、時代のニーズに応じた高い行政サービスの実現を目指す。
- 安全・安心なまちづくりのさらなる取組として、消防活動のICT化（ロボット導入）を検討。



展開する事業

- ・ 苫小牧イノベーション活性化事業
- ・ 行政サービスのICT化
- ・ 消防活動のICT化



基本目標と 施策の基本的方向

現代の子育て家庭は夫婦ともに家計を支える働き手として、また地域経済を支える人材として役割を担っており、多様化する世帯構成に対応した子育て支援を実施する必要があります。子育ての負担を軽くする社会の実現を目指し、男女平等参画都市を宣言している苫小牧らしく、世代や性別を超えた子育て支援を推進します。

また、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働きやすい環境を整備し、企業の人材確保に向けた「やめない」、「人が集まる」の好循環を作り出します。

さらには、社会の変化に対応する体験学習の機会、地域資源をいかした体験プログラムの充実により、子育てにとって良質な環境を提供します。

施策の基本的方向 2-1 仕事と子育ての両立支援

施策⑤ ワーキングマザー＆ファザーの子育て応援

- 子育て中の母親・父親向けに講座の実施や出産・育児と両立に向けた支援を行うことで、出産・子育てを理由とした離職を減らす。
- 子育ての物理的・経済的な負担を軽くすることで、「子どもが欲しい」「もう一人産みたい」の希望をかなえる。

展開する事業

- ・ 父子健康手帳交付事業
- ・ 小規模保育施設整備事業
- ・ なでしこ就職応援事業
- ・ 放課後児童クラブの充実
- ・ 多子世帯給食費助成事業

施策の基本的方向 2-2 出産・子育てしやすさを実感できる支援

施策⑥ 子育て支援・保育サービスの充実

- 全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境整備を図り、地域社会全体における子育て支援事業の充実を推進。
- 多子世帯家族にとって負担の大きい、保育料の無償化（3人目）や不妊治療及び不育症に係る助成を行うなど、経済的な負担軽減を図る。

展開する事業

- ・ 地域子育て支援事業
- ・ 一時預かり事業
- ・ ファミリー・サポート・センター事業
- ・ 子育て世代包括支援センター事業
- ・ 3人目の保育料等の無料化
- ・ 特定不妊・不育症治療費等助成事業

施策の基本的方向 2-3 苦小牧らしい教育プログラム形成支援

施策⑦ 苦小牧の地域資源をいかした 体験学習・地域づくりの推進

- 豊かな感性と人間性を持つ子どもを育成するための体験学習の機会と環境の整備を図る。
- 社会の変化・地域課題に対応する人材教育としての研修を実施し、郷土とまこまいの魅力ある地域づくりを推進し、地元自慢・愛する心を育む。



展開する事業

- ・ 豊かな自然環境や文化をいかした
体験プログラムの充実
- ・ アウトリーチ推進事業
- ・ 苦小牧アートフェスティバル事業
- ・ 市民・団体研修派遣事業

施策の基本的方向 2-4 ワーク・ライフ・バランスの促進

施策⑧ 「ワーク・ライフ・バランス」を 重視した職場の整備

- ワーク・ライフ・バランスへの取組促進に向けた各種啓発を実施し、企業の従業員の意欲、能力、創造性を引き出して生産性の向上を図るとともに、優秀な人材の確保・定着への土壌をつくりだす。
- 少子化の抑制、労働人口の確保など、社会全体の活性化を図る。
- 北海道で初めて「イクボス宣言」をした本市の取組を民間企業へと水平展開するため、民間との合同により研修を実施する。



展開する事業

- ・ ワーク・ライフ・バランス等企業表彰
- ・ 官民合同研修事業

基本目標と 施策の基本的方向

苫小牧出身者を本市に戻ってくる可能性のある層（移住のターゲット）として捉え、将来的なUターンにつなげます。また、定住人口と交流人口に加え、その中間に位置する関係人口を増やすとの観点から、スポーツの振興、合宿誘致などを通じて本市に興味を持ち、繰り返し足を運んでもらえる機会を設けます。
進学や就職期に本市を離れた方が「郷土とまこまい」に戻ってきたいと思わせる環境づくりを推進します。

施策の基本的方向 3-1 苫小牧出身者のネットワーク化支援

施策⑨ 苫小牧出身者への継続的な情報発信の拡充

- 苫小牧出身者は、将来的に結婚や子育てを機に本市にUターンする可能性があることから、本市が持つ様々な魅力を配信。
- 暮らしの情報や空き家情報、求人情報等をホームページやSNS（フェイスブック等）、本市出身者が集う場を活用して発信し、出身者が気軽に地元の情報に触れられる環境を整える。

展開する事業

- ・旬のとまこまい情報の発信事業
- ・同窓会組織への情報発信

施策の基本的方向 3-2 交流人口・定住人口の拡大支援

施策⑩ 移住者の受入れ体制の充実

- 移住希望者に対して、本市の生活環境や子育て環境などの情報や相談窓口の一元化を行い、効果的な情報発信と相談支援を行う。
- 空き家の情報の整理・発信や空き家への入居支援を行う。
- 本市への移住後の生活がイメージできるよう、移住希望者の要望に応じたオーダーメイド型の移住相談（市内案内）を実施。

展開する事業

- ・移住情報発信事業
- ・移住体験プログラム
～苫小牧オーダーメイド移住ガイド～

施策の基本的方向 3-2 交流人口・定住人口の拡大支援

施策⑪ ご当地イベントを活用した交流人口の創出

- 本市の貴重な自然や産業施設をいかしたイベントとして定着してきた「コスプレフェスタ」や、アニメ等のコンテンツを活用した新たな観光イメージをPR。



展開する事業

- ・とまこまいコスプレフェスタ
- ・とまこまいフィルムコミッション事業
- ・アニメツーリズム推進事業

施策⑫ 縁結びコーディネート機能の充実

- 苫小牧市内在住の男性又は女性と市外在住者（札幌市民など）とのマッチングを行う。
- とましん結婚相談所と連携したメンター機能を強化し、結婚希望者へ支援。



展開する事業

- ・とまこまい縁結びサポート助成事業
- ・届け出挙式

施策の基本的方向 3-3 “とまごころ
(地元自慢・愛する心)”の普及

施策⑬ 郷土の魅力を伝える活動の推進

- 子どもから高齢者までの全ての市民が、本市の地域資源の魅力を知り、郷土とまこまいへの理解を深めるとともに、地元自慢・愛する心（とまごころ）の醸成につなげる。



展開する事業

- ・ 苫小牧版図柄入りナンバープレート
- ・ とまチョップ水事業
- ・ 氷上スポーツ育成事業
- ・ 町内会スケートリンク経費助成事業
- ・ 国際少年アイスホッケー中学生交流事業

施策の基本的方向 3-4 関係人口の創出

**施策⑭ 苫小牧との継続的なつながりを持つ
きっかけづくりの推進**

- 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる者である「関係人口」に着目し、地域外からの交流の入り口を増やすことが必要。
- スポーツ合宿等を通じて、本市の「ファン」を増やし、地域の課題解決にも関わってもらえる地域外の人々とのネットワークを拡げる。



展開する事業

- ・ ふるさと納税事業（企業版ふるさと納税）
- ・ はちとまネットワーク推進事業
- ・ スポーツ合宿等補助事業
- ・ 全国高等学校選抜アイスホッケー大会

基本目標と 施策の基本的方向

戦略的な企業誘致の推進及び進出企業に対するフォローアップを進めます。多様な産業の集積を推進し、産業の高度化を目指すとともに、地域間連携による産業振興を進めます。また、国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致を図りつつ、豊かな自然環境との調和を図り、快適な都市環境を確保します。

施策の基本的方向 4-1 進出・立地企業への サポート機能の強化

施策⑮ 進出・立地企業への支援強化

- 立地企業が抱えている人手不足、人材確保等の課題やニーズに対して、継続的に意見交換・情報共有を図るとともに、課題解決に向けて連携・協力・支援を行う。
- 外国人労働者をはじめ、外国籍市民の受入体制の充実、地域との共生を図るため、相談窓口を設置。
- 緊急通報時や救急活動時の多言語通話サービスを導入。



展開する事業

- ・ 事業拡大・販路拡大支援事業
- ・ 人材確保支援事業
- ・ 職場環境改善事業
- ・ 外国人相談窓口設置
（多文化共生総合相談窓口設置事業）
- ・ 離職防止等処遇改善事業
- ・ 緊急通報・救急活動時の
多言語通話サービス導入

施策の基本的方向 4-2 多様な産業集積（高度化）の推進

施策⑯ 地理的優位性をいかした企業誘致の促進

- 新規立地及び企業の設備投資を呼び込むために、必要なインフラ整備を行う。
- 企業のニーズに応じた助成金制度により企業活動を支援し、多様な産業分野における企業進出を促進。



展開する事業

- ・ 新千歳空港の機能充実と国内・国際航空
輸送ネットワークの拠点形成
- ・ 企業立地振興条例助成金
- ・ 苫小牧港管理組合負担金

施策の基本的方向 4-3 地域間連携の促進

施策⑰ 広域連携事業の推進

- 東胆振定住自立圏における地域間の連携を促進し、本市が持つ都市機能と近隣自治体が持つ魅力や強み（豊かな自然・第一次産業等）を深掘りするとともに、その価値を内外に発信。
- 近年、多発する広域災害への備えを広域圏で進めるとともに、災害発生後の復旧・復興はもとより、経済活動の停滞（風評被害など）を回避するための取組を連携して実施。



展開する事業

- ・ 新千歳空港を核とした地域活性化の推進
- ・ 広域連携による地域ブランド推進
- ・ 防災体制の充実（防災備蓄品整備事業）

施策の基本的方向 4-4 充実した都市機能と
豊かな自然の共生施策⑱ 持続可能な都市機能及び
自然と共生した国際観光リゾートの形成

- 豊富かつ貴重な自然を観光資源とした、国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致により、投資を呼び込む機能を高める。
- Society5.0が掲げる新技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、持続可能な都市機能の整備。市民や来訪者がストレスなく目的地への移動が可能となる、ICTを活用した交通サービス導入を検討。
- 広域災害から安全・安心を確保するため、市民への情報発信を強化。



展開する事業

- ・ 苫小牧版M a a S 構築事業
- ・ 防災行政無線整備事業
- ・ 国際観光リゾートの形成
- ・ ごみ分別アプリ事業